

やまと 民俗への招待

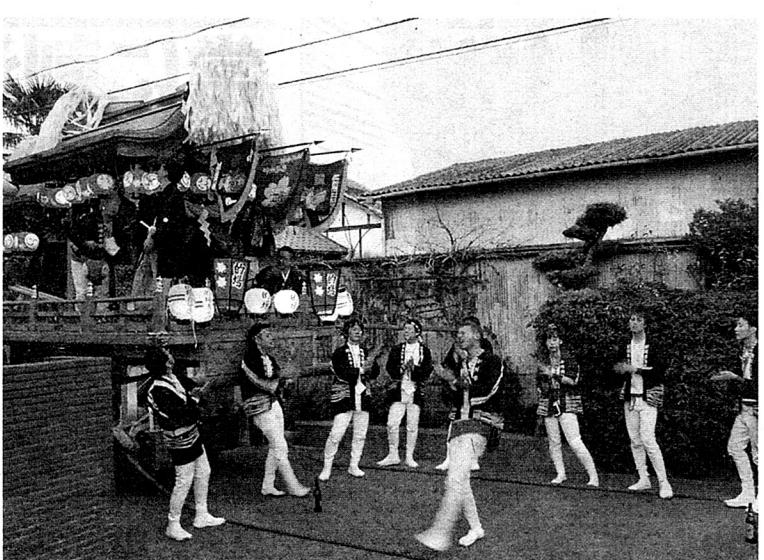
鹿谷 勲

♪アーヨーオイサー工
さした盃(さかずき)の ヨイヨ
イ なか見てー 飲みや
一 れ アーヨーアイセー
コーラセ なかはヨー鶴
亀(カニ) ソラゴイットサン
五葉の松ヨー ソランラ
ヤートコゼー アーヨ
一イヤナ アレワヰセ
コレワヰセー ソリヤ
ヨーアイトセー

奈良市柳生町で歌われ
ている「伊勢音頭」だ。
「お伊勢参り」とも呼ばば
れる。軽快で伸びやかな
歌だ。鶴は千年、亀は万
年、常緑の松も長寿のシン
ボルである。松葉は日本
で「房」となる五葉の松も
縁起がよいと考えられて
いた。こうしためでたい
歌を、一座の人気が次々に
繰り出し、歌い連ねてい
く。その場は、いやがう
えにも楽しくめでたい雰
囲気になる。

柳生町には、上と下の
12人ずつの長老たちが、
1年交替で氏神の神事を

執り行う宮座のしきたりがある。秋祭りの朝、お渡りの前に、トーヤモでは神社で奉納する三つの舞が舞われる。終わると一同で祝宴を開く。武藏野という大きな重ね盆の中から一座に廻す盃を決める。トーヤの親族が務める酌人が、1人ずつ酒を注ぐ。注がれた人は、軽く口をつけてから「サカナくれ！」と歌を所望する。この時に出でるのが、伊勢音頭である。



丘立祭りのダンシツの前で伊勢音頭を歌う的場の青年団
＝佐陵町で2013年、筆者撮影

流行する伊勢音頭

奈良市田原地区で行われる餅搗き歌である。横杆を使って1人で餅を搗くのではなく、大勢が堅杵を持って歌で調子を合わせて餅を搗く。祭りや祝いの餅は大勢で力を合わせて搗くことに意味があった。

表

の袖

♪出せよ大黒 歌えよ
恵比寿 なかで酌とる福

(奈良民俗文化研究所代
表)